

櫛引地域振興懇談会 令和6年度2回目意見対応

令和7年9月12日（金）14:00～

1. カーブミラーについて（総務企画課）

漆原（黒川地区）にあるカーブミラーが木と重なって見えずとても困っている。朝は交通量が多い県道なので若干動かしてもらいたい。

（回 答）区長に要望などの聞き取りは行っているが、移設等が必要な場合、予算の兼ね合いで優先順位をつけて対応させていただく。

（対応状況）参考見積書は既に徴取しており、カーブミラーの移設箇所を区長等関係者と協議しながら、今年度中に対応したい。

2. 広域コミュニティについて（総務企画課）

広域組織化はある程度目途をつけたほうがいいと思うが、どう考えているか。

（回 答）実態調査の結果、直ちに必要ないというところが大多数。10年後には必要という地区が半数。組織を三つにするか一つにするか、どういった形がいいのか実態調査を踏まえて、目途を立てて検討する。当初よりは遅くなるが、住民の理解を得ながら、団体の長を含めこれからを担う若手の人も委員に入れて検討体制を再編しようと考えている。

（対応状況）今年度は、区長会などの役員に各地区の若者等を構成員に加えて「櫛引地域コミュニティ研究会」を新たに組織化し、10月に1回目のワークショップを開催する。これからを担う若者を含めて地域の将来ビジョンを作りあげていくこととしている。 若い人に参加してもらう

3. 果樹の園地継承について（産業建設課）

観光協会でも観光果樹園がどんどん減っていて心を痛めている。アンケートの回答率も悪いと聞くと、農家さんはどう考えているか。一番目立つのはサクランボ農家の減少。今後は農業法人や企業参入を養成していかなければいけないと思うが、これまでの取組状況や受け皿的な経営体の育成に向けた支援をお願いしたい。

（回 答）アンケート調査は418件中140件が回答し回答率は33%。少なくみえるが、主要な果樹農家からは回答を得た。結果は現状維持56%・縮小希望38%（6年以上36%、5年以内35%）・拡大希望6%。すぐに辞めたい人はあまりいないという結果だった。何も言わずに果樹を伐採する人を減らし、櫛引の樹園地を極力維持していきたいと考えている。ゆくゆくは受け皿的な企業体が必要との意見がある。

（対応状況）調査及びヒアリングの結果、西片屋地区に離農予定樹園地2箇所と農事組合法人の解散によるさくらんぼ園地が存在し、いずれも受け手となる団地継承者を探している。そこで、今年度、離農予定樹園地の円滑な継承に向けた仕組みをつくりたい。仕組みづくりのためには、受け手として果樹経営中心の大規模経営体の確保が前提となるが、現時

点で櫛引地域にはこのような経営体は少ない。そこで、庁舎としても受け手の掘り起しに全力であたっているが、具体がみえない状況であることから、委員から担い手の有益な情報やアイデアを頂戴したい。

4. 農村都市交流について（産業建設課）

青木小学校との都市農村交流やグリーンツーリズムを広げるために当局はどのように考えているか。

（回 答）様々な状況から青木小学校の修学旅行の受け入れはしないこととした。櫛引南小学校も今年度の修学旅行を最後に行かないこととなった。農協青年部は活動継続の意向があるので予算計上し引き続き支援していく。

首都圏販売はコロナ化を経て人為的、金銭的に難しくなった。今年度をもって当初の目的は達成されたので首都圏販売を終了した。ネット販売や SNS で情報発信し向こうから来てもらう取組に注力していきたいと考えている。

（対応状況）支援目的は都市農村交流による農産物等の販路拡大であるが、「あおきふれあいまつり」への参加のみでは事業効果が限定されるため令和7年度の補助金交付は見送りとしたい。なお、今後はグリーンツーリズムを主とした都市農村交流について支援を検討する。

5. 鶴岡南部エリア観光振興について（産業建設課）

南部エリア事業に観光協会としても力を入れたいと思っている。六十里越の草刈りは令和7年度も取り組みたいと考えているが、整備を含めて周知していくことが大事だと思う。朝日は山先導さん中心で行っているが、連携をとってやっていくべき。地元の人の参加も必要。六十里越の草刈りを体験イベントとして企画して、地元の人に地元のことをもっと知ってもらうきっかけにしたらどうか。地域が忘れ去っている印象があるため、まずそれを掘り起こす取り組みが必要なのではないか。

（回 答）地元のイベント的なことを行い機運が高まれば地域の連携も深まると思うし、外からの集客につながるのではないかと。約 90 万円の整備予算を計上し、六十里越街道の整備を予定している。

（対応状況）令和6年度に実施した南部広域ツーリズム調査の結果を基に、今年度は実際の旅行商品として造成し、11 月中にモニターツアーを実施する予定としている。
六十里越街道については小規模修繕で砂利敷き及び草刈りを6月に実施している。

6. 若者向けのイベントについて（総務企画課）

全体的に若者向けのイベントが少ない。イベントづくりは「当日にぎわいがつくれてよかった」だけで終わらせてほしくない。イベントをつくる人づくり、また、継続

してやりたい場合のサポート体制など、これからもっと考えてほしい

(対応状況) 9月6日開催の「くしびき秋の大感謝祭」は、水焰の能と同日開催し、子どもから大人まで楽しめるイベント作りとなった。また、縁日の運営に中学生が参加し、若者の活躍の場の創出につながった。
さらに、10月11日には中学生を対象としたeスポーツ大会を開催予定である。イベントの主催は、「櫛引地域コミュニティ検討ワークショップ」から派生した任意団体で、今後も実証的に広域的なイベントづくりに取り組んでいきたいと考えている。
なお、本イベントでは、生徒から運営面でも参加してもらうことで地域づくりへの関心を高め、次世代の地域の担い手育成にもつなげてまいりたいと考えている。
また、庁舎は当該団体のオブザーバーとして伴走支援しており、引き続きサポート体制の構築や支援の手法などについて検討してまいりたい。